

まちづくり市民ワークショップ《第2回全体ワークショップ》ニュース

日時：平成 29 年 2 月 4 日(土)13:30~15:30

場所：加東市社公民館 2階 研修室

◆ 次 第 ◆

- 1 開会
- 2 ワークショップ
分野毎の将来像（まちづくりの目標）を踏まえて、加東市全体の将来像を考える
- 3 今後の予定等について
- 4 閉会



当日の会場の様子

第2回全体ワークショップには、35人の市民等の皆さんに出席していただきました。

◆第2回全体ワークショップの内容

- 分野別ワークショップで検討した加東市の分野毎の将来像（まちづくりの目標）を踏まえ、加東市全体の将来像を考えていただきました。
- グループワークに先立ち、各グループから分野毎の将来像（まちづくりの目標）を発表していただき、情報共有（交換）を行いました。
- その後、3つのグループ（各分野の2グループが合体して新しいグループを結成）で加東市全体の将来像を検討し、その結果を発表していただきました。

◆ワークショップ

- 分野毎の将来像（まちづくりの目標）を踏まえ、加東市全体の将来像を、KJ法という手法を用いて整理していきました。
- まずは、参加者全員が加東市全体の将来像を付箋紙に書き込み、模造紙に貼り込みながら、意見交換（共有）をしました。
- 加東市全体の将来像を検討した後、その将来像を実現するためには「人づくりの視点」「まちづくりの視点」「くらしづくりの視点」等において何が大切かを整理しました。
- そして、発表する人を自薦、他薦で選び、結果を報告し、意見交換（共有）を行いました。



◆ワークショップの結果発表（加東市全体の将来像）

「文化」「安心」グループ

全体将来像

『笑顔で「おはよー」いえるまち』

- ・誰もが笑顔で過ごせるまち
- ・「おはよー」が聞こえるまち

「笑顔」は、健康、元気など、人の幸せな姿を象徴
「おはよー」は、人と人とのつながりやコミュニティが
明るくすがすがしい様子を象徴

～ 将来像の視点 ～

①ひとづくり

- ・元気で明るいまち
- ・命を育めるまち
- ・健康づくり
- ・あいさつから人との交流が始まる
- ・あいさつは安心・安全にもつながる
- ・一人ひとりを大切にする小学校教育、地域を大切にする→あいさつする小中高生
- ・声のかけあい助けあい
- ・コミュニティづくり、あたたかい人間関係、家族の和、地域の和
- ・自発的な活動
- ・1人ひとりが成長し、そして地域の人々が成長していくまち

②まちづくり

- ・住んでみたいまち
- ・知ろうとする、知ってもらうまち
- ・親しみやすいまち
- ・自然が多いまち
- ・憩いの場が充実しているまち

③くらしづくり

- ・10年長生きできるまち（医療、健康、交流、自然）
- ・地域・文化を大切にするまち

★その他意見等

- ・これまで、「良いところ」を重視して問題点の洗い出しをしてこなかった。医療費の無料化の遅れなど、問題点があると思う。
- ・今回のワークショップで出されたさまざまな意見が総合計画にどのように反映されるのか、市としての回答が必要。言いつばなしでは意味がないし、回答があれば今後の参加意欲が高まる。

「安全」「快適」グループ

全体将来像

『住んで良かったまち』、『住んで良かったを広める』

- ・いろいろなことがつながるまち
- ・ゆとりのある生活ができるまち

～ 将来像の視点 ～

①ひと

- ・リーダーの育成
- ・自分のことばかりでなく、他人を助けることができるゆとりがある人材
- ・教育が人材育成につながる
- ・かせぐことができる人間の育成
- ・市民参画がポイント、参加できない人はアンケート回答などで参画
- ・若い人のためのまちかど体操、ヨガ（三世代交流のきっかけづくり）
- ・加東市の文化産業に関する教育の実施
- ・ダンス、絵、その道のプロに会う、ギネスに挑戦みたいなワークショップを開く
- ・後継者の支援
- ・思い出のあるまちとして同窓会を応援！
- ・イベント・行事への声かけ運動
- ・サークル活動
- ・育児が低コスト、低リスクでできる

②まち

- ・産、学、住の連携
- ・自然との共生に労力をおしまない
- ・カフェ、サロン、伝の助アート、アンテナショップ
- ・公共施設への投資としての市民の参加、運営、維持、管理
- ・歩道、外灯、パトロール（見守り）があり、明るく安全
- ・ステージでの発表等が同じ人ばかりで人が集まる市のイベントがマンネリ化しているため、3年毎に内容を変えたりする
- ・公共施設や設備が充実している
- ・負担にならないが安定した税収が確保できる
- ・発展しても素朴な雰囲気損なわない

③くらし

- ・手厚く無理のない福祉制度がある
- ・人と地域のつながりがある
- ・人が地域に多く出てきて関わりあえる
- ・観光産業、観光ボランティアで人と物を動かす
- ・近所同士の交流が多い
- ・あいさつから始める
- ・生活基盤が安定している。衣食住の充実
- ・医療の充実（医師や病院の充実）
- ・地域レベルのイベントの支援
- ・公園やピオトープ等の安全・安心の遊び場がある
- ・交通安全
- ・安定した収入と雇用がある
- ・市民の交通手段の充実
- ・生涯スポーツを楽しむことができる
- ・自分の時間が楽しめる
- ・時間がゆっくりと流れていく
- ・交通事故がない

④その他

- ・出会いを重視し、街コンでカップルになって結婚した方に家をプレゼント
- ・農作物のブランド化、有機肥料によるミネラルが豊富な野菜作り



「活力」「協働」グループ

全体将来像

○キーワード1「魅力」

- ・魅力を知って、愛着の持てるまち
- ・魅力を発見できるまち
- ・市民が誇りを持てるまち
 - ※眠っている歴史を知ってもらう
 - ※子供達に誇りを持ってもらう加東市にする
- ・文化あふれるまち
 - ※まちづくりは人づくり
- ・親しみやすいまち（人や意見を受け入れやすい）
- ・人と人とが結びつくまち

○キーワード2「自発」

- ・自発的な活動（チャレンジ）ができるまち
- ・個人の趣味等が活かせるまち
- ・いろいろなことがプラスになるまち
- ・やる気のあるまち
 - 農業もしんどいもの。やる気がないと良いものはない

○キーワード3「家族」

- ・家族を育むまち

～ 将来像の視点 ～

○すべてのキーワードに共通すること

- ・道路体系の整備
 - 特に南北の幹線

○キーワード1「魅力」

①ひとづくり

- ・小さい頃から加東市の魅力を教育に取り入れる
- ・ボランティアガイド、ボランティアトレーナー（スポーツ）
- ・産業や歴史の情報発信（市民への）
- ・情報受信（マッチング）
 - ノウハウや技術、やる気を持った人とそれを必要とする機会・人との出会い・結びつけの仕組み

②まちづくり

- ・自然資源の活用
 - 山、川、ホテル、ミヤマクワガタ、温泉
- ・市民協働による観光資源の発掘・整備

③くらしづくり

- ・山田錦を広めるための媒体づくり
 - 山田錦は「いい！」というイメージがあるが、どれを選べばいいかわからない
- ・魅力発見、発掘イベントの開催（市民主導で）

○キーワード2「自発」

①ひとづくり

- ・創業特区みたいな加東市ならではの制度（新しいことを始める人へのサポート）

③くらしづくり

- ・山田錦を使って新しい取組をする企業の支援
- ・加東市ブランドの構築
 - 山田錦を使用した「伝の助うどん」の売込

○キーワード3「家族」

- ・コミュニティバスの充実（高齢者の増加への対応）



◆その他

- ・本ワークショップの結果については、基本構想及び基本計画の策定に係る基礎資料とします。
- ・本ワークショップにおける分野（グループ）分けは、第1次総合計画の政策体系（「文化」「安心」「安全」「快適」「活力」「協働」）を基に行いましたが、次期総合計画においては、その体系を再構築する方向で検討を進めていますので、現行の政策体系と異なる場合があります。
- ・これまでのワークショップの結果をまとめたニュースをホームページ等で公表し、市民に情報提供します。
- ・総合計画案がある程度まとまった段階で、本ワークショップに参加していただいた方に、その内容を報告します。

発行：まちづくり市民ワークショップ事務局（加東市協働部企画協働課）

電 話 0795-43-0389

E-mail suishin@city.kato.lg.jp